

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	福井県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	福井市明道中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	5	7	3	18	42
生徒数	218	198	250	17	683	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」を培う学びの創造

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・全教科</p> <p>本校の研究実践は、これまでも全教科・全学年・あらゆる教育課程を対象に進めてきた実績がある。また、学力向上フロンティア事業についても「学力＝生きる力」として幅広く捉え、更に「生きる力」を、大きく変化していくこれからの社会を主体的にたくましく生き抜く力(すこやかな体と体力のもとに、豊かな心で自ら学び、考え、判断し、よりよく問題を解決する力)と捉えた。つまり「生きる力」は、たくましく生きるための健康や体力のもとに、生きて働く知力と社会性(豊かな人間性)を総合化したものであると捉え、全体的な視野に立って取り組むべきものと考えている。</p>

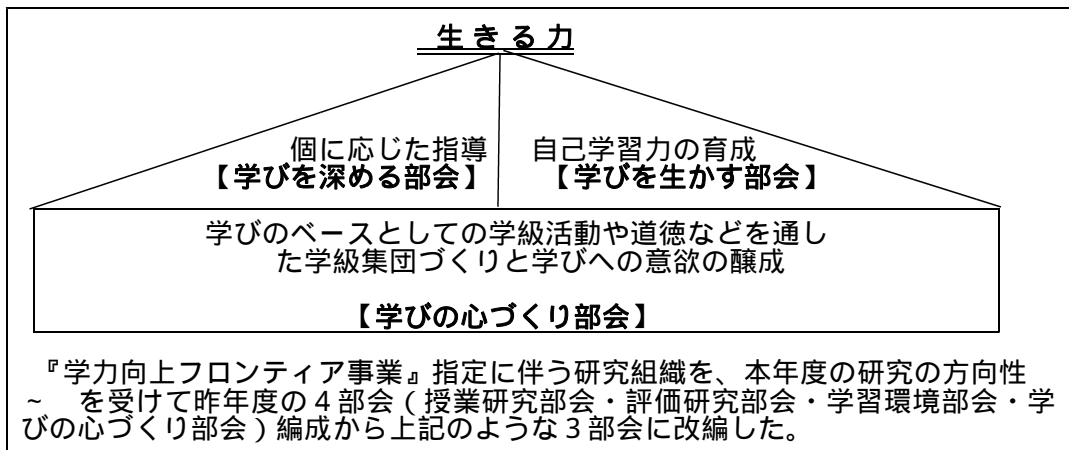
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>「確かな学力」を培う学びの創造</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>学びの環境を整えるとともに、一人一人の能力や個性に応じた学習の展開を工夫すれば、生徒の学びは主体的となり、確かな学力が定着していく。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>研究体制の確立と研究計画の立案、試行的な実践を通しての課題の明確化を行う。</p> <p>授業の改善・授業研究の充実(研究授業・先進校視察など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業(数学・理科・英語)、習熟度別少人数授業(数学)、TT(数学・理科・英語)種目選択授業(体育)など授業形態を変えた指導のあり方の実践 ・全教科におけるきめ細かい指導をめざした教材の開発と学習活動の工夫 ・生徒のニーズに応える多様な選択教科(講座)の開設とその教材の開発 ・生徒の学習に対する意識の実態調査と指導重点項目の検討 <p>評価の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準・基準の作成、検討 ・学習活動内における評価の研究 <p>学習環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材バンクづくり ・ビデオ教材の収集と整理 <p>学びの主体者としての生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態調査とそれに基づく重点項目の検討 ・道徳の学習の充実 ・グループエンカウンターなどを通して、学びの集団づくりの実践
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力」を培う学びの創造</p> <p>研究の見通し 学びの環境を整えるとともに、一人一人の能力や個性に応じた学習の展開を工夫すれば、生徒の学びは主体的となり、確かな学力が定着していく。</p> <p>研究の内容・方法 平成14年度のベースの「めざす生徒像」「確かな学力」の共通理解の上に、14年度の研究の成果をふまえ、次の6つを課題としてまとめた。</p> <p>課題 研究の焦点化と新たな体制づくり 課題 学びの目的意識や課題意識の向上 主体的な学習へ 課題 評価基準の見直しと実験的運用を図る 指導と評価の一体化を進める 課題 実践成果の的確な把握方法 生徒の自己評価様式、教師の評価様式 課題 教育課程の再検討や環境整備 効果のある教育活動の展開 課題 目的意識、課題意識が弱い 自ら学ぶ意欲の醸成</p> <p>以上の課題達成に向けて、以下の ～ を研究推進の柱とした。 個に応じたきめ細かい指導を柱とした教授方略や評価基準の等教育課程の改善や教科研究の実践研究を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TTや少人数授業、習熟度別授業など個に応じた指導の研究実践とともに、主体的に学習に取り組む生徒の育成。 <p>【これまでの主な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導の工夫。 ・授業形態の工夫（習熟度別少人数授業＝数学、少人数授業＝理科・英語など）と学習指導の工夫 ・生徒が目的意識を持って授業に取り組むための工夫。 ・課題の明確化、課題の工夫、発問の工夫、学習の見通しを持たせるなど指導と評価の一体化をめざしての工夫。 ・単元や題材ごとの指導計画に評価計画を明示。また、B基準達成のための手だてとA基準の具体的な状況も明示し、フィードバックを容易にする。 ・自己評価を取り入れ、授業評価につなげると共に、生徒の評価能力を育てる。 ・形成的評価、個人内評価を大切にする。 <p>学びのベースとなる学級集団づくりや豊かな心と学びへの意欲の醸成について実践研究を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人としての基礎・基本や向上心のある主体的な学びや学び合いを目指し、道徳や学級活動を核にした心の居場所となる学級集団づくりを実践する。 <p>【これまでの主な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一役など学級での班活動や係り活動の工夫。 ・人生の先輩による道徳授業の実践や特殊学級担当教諭とのTT授業。 ・読み物資料、映像資料、主題に迫るための道徳の授業展開例の収集。 ・生徒理解のための「楽しい学校生活を送るためのアンケート(Q-U)」2回実施。 <p>体験的な学習や問題解決学習を通して自ら学び考える力を育むため、総合的な学習の時間や各種体験活動の持ち方等についての研究実践を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や各種体験的活動・学校行事を通して、自ら学び考え行動することができる生徒を育成する。各種体験活動等の研究実践を推進する。 <p>【これまでの主な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間に興味・関心や課題意識を持って主体的に取り組みせる工夫 ・学校の実態に即した3年間の計画と実践、課題の与え方の工夫、発表会など ・学校の内外を通じたさまざまな行事、体験的活動の促進。・ライブリー体験など ・開かれた学校づくりの推進・広報啓発活動、公民館との連携、人材バンクなど <p>最終的には、この から の3つのアプローチの連動により研究主題のより効果的な達成を図る。</p>
--------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 「確かな学力」を培う学びの創造</p> <p>研究の見通し 学びの環境を整えるとともに、一人一人の能力や個性に応じた学習の展開を工夫すれば、生徒の学びは主体的となり、確かな学力が定着していく。</p> <p>研究の内容・方法 平成15年度の研究成果と課題および生徒アンケートに基づき実践の改善継続と3カ年の成果と課題のまとめを行う。</p> <p>個に応じたきめ細かい指導を柱とした教授方略や評価基準の等教育課程の改善や教科研究の実践研究の推進とまとめ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TTや少人数授業、習熟度別授業など個に応じた指導の実践継続とともに、主体的に学習に取り組む生徒の育成のまとめ。 ・学びのベースとなる学級集団づくりや豊かな心と学びへの意欲の醸成について実践研究の推進とまとめ。 ・人としての基礎・基本や向上心のある主体的な学びや学び合いを目指し、道徳や学級活動を核にした心の居場所となる学級集団づくりの実践継続とまとめ。 ・体験的な学習や問題解決学習を通して自ら学び考える力を育むため、総合的な学習の時間や各種体験活動の持ち方等についての研究実践の推進とまとめ。 ・総合的な学習の時間や各種体験的活動・学校行事を通して、自ら学び考え行動することができる生徒を育成する。各種体験活動等の研究実践の推進継続とまとめ。
--------------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果および今後の課題

1. 研究成果

生徒の変容について
 全般的に大変落ち着いた中で学習活動が展開されている。ただ、本年度の生徒の学習に対する意識調査は1月末に実施予定のため、前回からの変容は現在のところデータとして比較できない。また、学力についての比較も現在のところデータとして明確な向上を見て取ることができない。

しかし、少人数授業、習熟度別少人数授業については、学びやすさ・学習活動の量（コミュニケーション活動など）・授業に対する意欲などの面で効果的であり、主体的な学習への変容が進んでいると考えられる。

また、学校行事や総合的な学習の時間、各種体験活動における目的意識・取り組み・満足感については、項目ごとに40%台から70%前後までと前年に続いて高いレベルでの「はい」の回答を得ている。

生徒理解のための「楽しい学校生活を送るためのアンケート(Q-U)」については、2回目を2月中に実施予定しており、問題を抱える生徒についての教育相談やグループエンカウンターなどの実施の成果が期待される。

研究のとして
 ・授業と評価の一体化を図ることをめざして評価規準・基準の見直しによる基

礎・基本の明確化とともに、単元や題材ごとの指導計画の工夫として、指導計画表にB基準達成の手だてとA基準の具体的な状況を明示し、授業を通しての評価結果を随時指導計画にフィードバックしていくことや個に応じた指導の工夫が全教科で少しずつではあるがなされてきている。

- ・少人数授業、習熟度別少人数授業、TTなどの実践を通して、一人一人の生徒の実体を捉えたいきめ細かい指導が展開されてきている。
- ・教科だけでなく道徳や学級活動、総合的な学習、学校行事など多方面からの総合的なアプローチにより、「確かな学力=生きる力」という捉え方が定着した。

2. 今後の課題

継続中の実践ばかりであるので、これらを継続し、研究主題の達成を図ることが最大の課題であるが、以下に今年度の取組みから明らかになったものをいくつかあげてみたい。

授業と評価の一体化を図る指導計画をできるだけ多くの単元や題材で作成し実践することを通し、生徒が目的意識を持って授業に取り組めるようにする。

個に応じた指導の工夫をより一層進め、少人数授業などのメリットを最大限に活かす授業構成を工夫する。

主体的な学びや学び合いを高めるために、学級活動の活性化をめざし班活動などの学級での取組みを工夫する。

総合的な学習の時間と各教科・領域との関連づけを図るとともに、活動意欲を高める評価方法を工夫する。

研究実践の成果を把握するために、生徒一人一人の思いや学力をよりの確に捉える手だてを工夫改善する。

授業研究を通して、教師一人一人の指導技術の向上を一層進める。

学力把握のための学校としての取組

定期試験による比較。
 本校独自の評価規準・基準に基づく評価活動。
 学習の内容や取組みに対するアンケートの実施と考察。(年1回)
 各種体験活動や学校行事、総合的な学習の時間に対する事後評価の実施と考察。
 生徒理解のための「楽しい学校生活を送るためのアンケート(Q-U)」の実施。(年2回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業(含総合的な学習の時間の発表会)の実施。(年4回、県内教員、保護者対象)
 学力向上フロンティア事業研究協議会等での発表。
 研究紀要の作成と配布。
 HPの作成、更新による研究内容の紹介。
 各種便りなどによる校下地域への広報。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無